

2017年12月19日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル：【クリスマス・シーズンの材料は、年明けに焼き直される】

明日、明後日（12月20日・21日）には、日銀の政策決定会合を控えています。

しかし、カレンダーを見ると、クリスマスまであと1週間で切りました。

外国為替市場は『クリスマス相場』真っ直中です。

この時期になると、毎年なのですが、

「この時期（クリスマス・シーズン）は休んだ方が良い」

と提案してきました。

『クリスマス相場』とはいえ市場参加者がまったくいない状態ではないので、相場が動くことがあります。

そうすると投資家心理として取引をしたくなるものだし、まして入れ込んでいる時は、チャンスを逃すまいと、いつまでも続けたい気持もわかります。

「休めと言うけれど、相場から離れている時に重要な材料が出たらどうする？

儲けのチャンスを逃すのではないか！」

という心配もあるでしょう。

市場参加者が少ない時に重要な材料が出れば、確かに相場は乱高下します。

しかし、過去の例を見ても明らかなように、参加者が少ないために材料を消化しきれずに、来年、また焼き直されるものなのです。

慌てる必要はまったくありません。

日本人は勤勉な性格なので、師走と呼ばれる12月はせわしなく体を動かしていないと、何か申し訳ない気がします。

その影響もあって、国内の株式市場であれば12月末の大納会に向けて取引が増えていくのでしょう。

しかし、外為市場は欧米の感覚で動いています。

それは「クリスマス相場でお休み」という感覚です。

もしまだ取引を続けているのであれば、もう休みませんか？

負けが込んで熱くなっているのなら、頭を冷やしませんか？

為替相場は来年も確実に存在するのだから、年が明けて市場参加者が戻り、相場に厚みが出てから取引を再開すれば良いだけのことです。

+++++

(2017年12月19日東京時間13:30記述)